



横芝光町民ギャラリー企画展図録

# 祈りの絵画 横芝光町の 絵馬



横芝光町教育委員会

## はじめに

今年は平年である。だからといって絵馬展をするわけではないが、ここ数年町内を歩いていて、たまに絵馬がある事に気づき、下調査しているうちかなりの数がある事が分かった。そこで町内の絵馬を集めて展示したら面白いのではないかと企画し、本気で調査し、集めて見たら結構面白い絵馬が出てきたのである。

千葉県では絵馬の全県的な調査をしたのが平成5年から7年で、その時は旧横芝町の方では33点確認されたが、旧光町では全く確認されなかった。しかし、今回の調査で光地区にもかなりの数の絵馬がある事が分かり、決して皆無ではなかった。それらの絵馬の大半は、幅が20cm前後以下の小絵馬で、また、多くは拝み図という定型的な画題のものであった。他の絵馬展や図録などで取り上げられる絵馬は、定型的なものはあまり面白くないせいか、ほとんど顧みられない。しかし、多くの同じような絵までも、1点1点に奉納した人の思いがこめられていると思われる。であるから今回町内で集め、展示しここに紹介した絵馬は同じようなものでも、できるだけ取り上げることにした。中にはほとんど見えなくなってしまった絵馬もあるが、それは年月を経た結果であり、今の姿を伝えるものとして粗末に扱うべきものではないと思う。

このような趣旨に基づいて、今回、町内に所在する絵馬、小さいものから大きなものまで、百余点を集めて展示しました。これ以外にもまだ埋もれている絵馬はあると思いますが、これによって、この町にも江戸時代から絵を愛でる文化、絵馬を奉納する文化があった事を、知っていただければ幸いです。

この度、絵馬展を開催するに当たり、絵馬を所有・管理している方々には、借用に際してはご快諾頂き大変感謝致します。また、展示、及び図録作成には、成田山霊光館小倉博氏、睦沢町歴史郷土資料館久野一郎氏から、多大なるご教示を賜りました。厚く御礼申し上げます。



宮内熊野神社の現在の絵馬奉納

# 目次

はじめに

目次

新井観音堂	1～6
牛熊八幡神社	7
町原稻荷神社	8～12
於幾粟島宮	13～18
古屋薬王院	19～26
小川台隆台寺	27～37
長倉長勝寺	38～39
遠山萬福寺	40～41

解説

1. 絵馬の歴史	42
2. 横芝光町の絵馬の概要	43

絵馬の形  
絵馬の構造・材質  
絵馬の画題  
絵馬の彩色



## 新井観音堂1



1.  
 名称 十九夜講女人中如意輪観音拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 森 良  
 願主 当村女人中  
 法量 縦75.8cm 横151.0cm 板厚15mm  
 年代 慶応3年 (1867)  
 材質 檜 2枚 板目

絵は板素材に直接、左上に如意輪観音菩薩を、右に講の女人を72人配して描かれ、非常に依存度は良好である。

女人は、着ている着物はそれほどいいものではないが、普段着ではないだろう。十九夜講は江戸時代、生まれる子を育てられないために、葬った水子を供養するため、盛んに行われた。その水子を供養する母親の姿が、よく描かれている。



現在の新井観音堂

新井観音堂は、新井集落の中央部にあり、近隣住民の信仰を集めていたが、近年はあまり顧みられなくなったという。元々個人の持仏堂の様で、もとはその屋敷地にあったのを、数十年前、現在地に移したという。本尊は如意輪観音で、堂内厨子に安置されていた。その如意輪観音への信仰から、この集落のみならず、周辺集落も含めて多くの祈願があったものと思われる。

現在はほとんど管理される事なく、堂は朽ち果てようとしている。



2.  
 名称 十九夜講女人中如意輪観音拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 (菊川)英重  
 願主 森弥市 当村女人中  
 法量 縦75.3cm 横151.4cm 板厚7.5mm  
 年代 明治12年  
 材質 檜 3枚 板目

絵は板素材に薄く胡粉を塗った上に描かれたため、色彩の残存度は非常に悪くなっている。左上に如意輪観音菩薩を、右に講の女人を92人配して描かれ、前のと構図は同じである。しかし、女人の配列はランダムで、若い娘も多いようである。

女人は、着ている着物はそれほどいいものではないが、普段着ではないだろう。十九夜講は江戸時代、生まれる子を育てられないために、葬った水子を供養するため、盛んに行われた。その水子を供養する母親の姿が、よく描かれている。

新井観音堂の本尊如意輪観音座像は、寄せ木造りで漆箔で仕上げられ、光背から台座までよく残っている。台座に元禄9年の銘があり、その時代の特徴をよく表した像である。



木造如意輪観音座像



3  
 名称 家族拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 森 弥市  
 法量 縦30.9cm  
 横47.6cm  
 板厚 3mm  
 年代 明治19年(1886)  
 材質 檜 板目

4  
 名称 母娘拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦29.3cm  
 横40.1cm  
 板厚 9mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目



5  
 名称 男拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 大総村木戸台 伊藤弥重郎  
 法量 縦36.3cm 横22.7cm  
 板厚 6mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目

これら3点の奉納額は、板への彩色方法、図のモチーフ、彩色絵の具など、共通性が見られ、同年代の同一の作者による製作と思われる。左上に幕がかかり、その下に提灯が下がって、本尊は見えない。右下に拝む人物を描く構図は、拝み図に多い。

新井観音堂 4



6  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦23.1cm  
 横34.6cm  
 板厚 4mm  
 年代 大正6年(1917)  
 材質 檜板目  
 図はほとんど消えかかっている。

7  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 日吉村 行方氏  
 法量 縦19.2cm 横35.0cm  
 板厚 6mm  
 年代 明治  
 材質 檜板目  
 心願成就の墨書がある。



8  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 篠本 行方氏  
 法量 縦22.0cm  
 横41.6cm  
 板厚 7mm  
 年代 明治  
 材質 檜板目

9  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦15.6cm 横22.8cm  
 板厚 5mm  
 年代 明治  
 材質 檜板目



新井観音堂 5



10  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.2cm 横23.0cm  
 板厚 5mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目

11  
 名称 兔図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦14.7cm 横20.3cm  
 板厚 6mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目



12  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦12.6cm 横21.0cm  
 板厚 3mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目

13  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.4cm 横22.5cm  
 板厚 9mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目





14  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦19.3cm 横27.0cm  
 板厚9.5mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目  
 裏面 千葉県元総国香取□新□  
 第五拾壱□ 農 大川□□

15  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.9cm 横20.0cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



16  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.9cm 横27.2cm  
 板厚4mm  
 年代 明治  
 材質 檜 板目

17  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町新井  
 寺社名 新井観音堂  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦13.8cm 横21.4cm  
 板厚  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



牛熊八幡神社

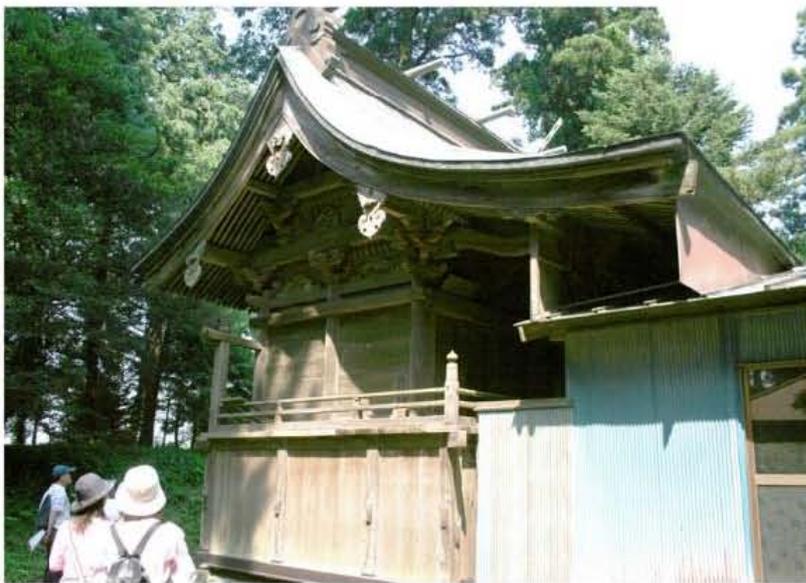


18

名称 源為朝、海路を聞く図絵馬  
 所在地 横芝光町牛熊  
 寺社名 牛熊八幡神社  
 作者 不明  
 願主 長倉村押尾氏  
 法量 縦51.3cm 横86.5cm  
 板厚12mm  
 年代 文政10年 丁亥 七月  
 材質 檜 2枚合わせ 柱目

図は、波立つ海岸右に、源為朝と思われる甲冑武者が腕をまくってかまえ、左に赤毛の西洋人と思しき人が、手に饅頭のようなものを捧げているモチーフである。このような図では、聞く相手が韓国人か中国人が多いが、西洋人は他に類例を見ない。図は木地に直接描かれ、依存度は良い。

八幡神社ではほかにも絵馬があるが、図の依存度は良くない。



牛熊八幡神社本殿

牛熊は、平安時代の押隈郷に比定され、八幡社のある台地は遺跡があって、古くから人々の営みがあった事が分かる。この八幡社も、神代の時代からこの地に鎮座して、多くの営みを守ってきた事だろう。

ほかにも絵馬があったというが、今はこれ1点のみである。



19  
 名称 依藤太と琵琶湖龍神図絵馬  
 所在地 横芝光町町原  
 寺社名 町原稲荷神社  
 作者 菊川三英  
 願主 田久保村江波戸久兵衛  
 法量 縦574cm 横90.7cm  
 板厚 7mm  
 年代 明治5年壬申4月  
 材質 檜 1枚板 板目

木地に薄く胡粉を塗り、その上に彩色して絵を描いている所から、絵の依存度は良好。黒雲を背景に、中央に龍に乗った琵琶湖龍神、右に依藤太（藤原秀郷）を配し、勇壮な図柄である。人物及び龍は細かく描かれ、色の濃淡も微妙に表され、絵としても優品である。

これは弓の名手依藤太が琵琶湖の龍神から、三上山の大百足の退治を頼まれた時の図で、龍の上に乗っているのは龍神の化身の女神である。依藤太は藤原秀郷とも言われ、平安時代、平将門を討ったことで有名。

図の作者、菊川三英は匝瑳市白山神社の江戸後期の絵馬を描いた絵師菊川英信と同派のものか。



町原稲荷神社境内

町原稲荷神社は、大総の県道沿いにあり、社は小さいがその拝殿内に絵馬が掛けられている。稲荷社の後ろには子安社があり、また、正面には町指定の大銀杏がそびえ、秋には黄葉が見事である。この神社にいずれも見事な中絵馬が良好な状態で7点もあったのは奇跡というほかない。

町原稲荷神社2



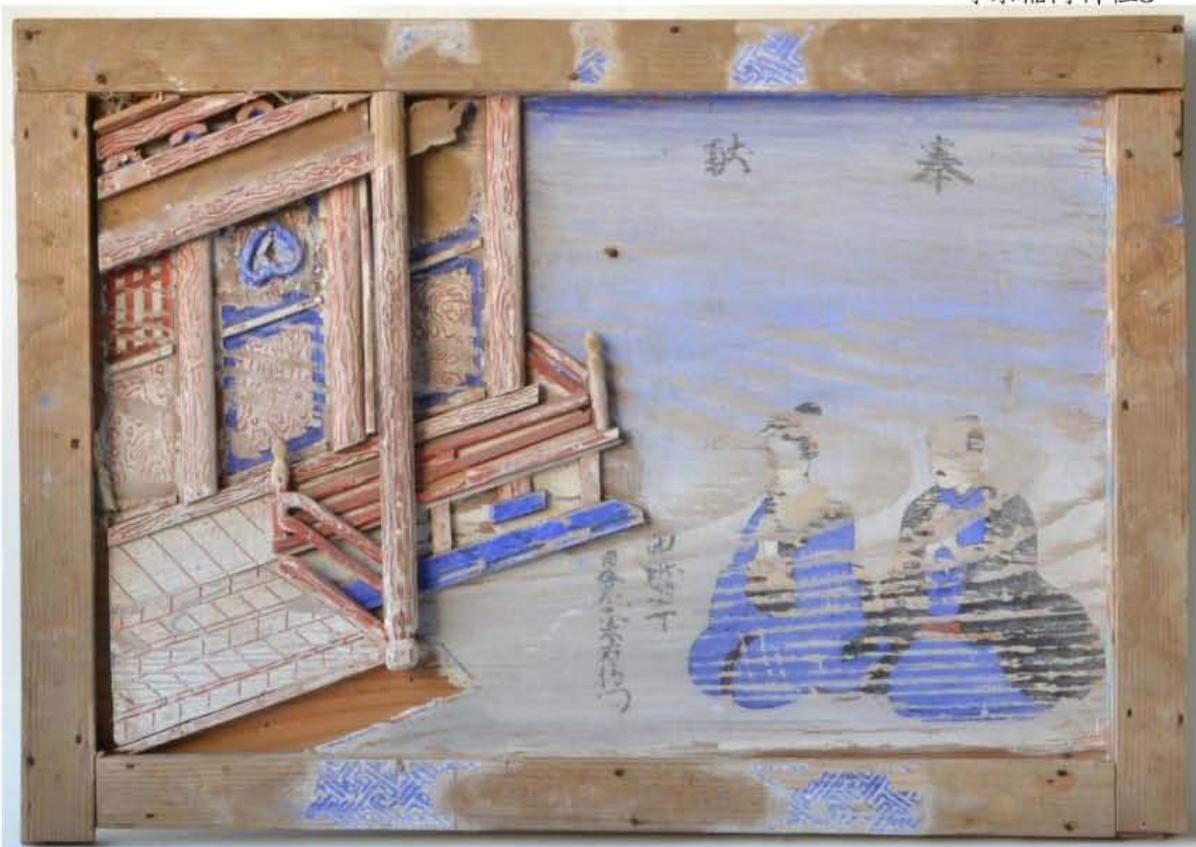
20  
 名称 源頼光酒呑童子退治図奉納額  
 所在地 横芝光町町原  
 寺社名 町原稲荷神社  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦50.5cm 横70.0cm  
 板厚10mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目 1枚

左下に酒呑童子が酔いつぶれて横たわり、これを討たんと狙う源頼光が右上に描かれた絵である。絵馬では酒呑童子退治図は多く、主に大きい奉納額に見られる。これは中型の奉納額であるが、彩色がかなり落ちているのも関わらず、細かく描かれている。

また、周囲の額も群青で彩色され、制作当初はきれいであったろう。



拝殿に掛けられた絵馬



21  
 名称 夫婦拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町町原  
 寺社名 町原稲荷神社  
 作者 不明  
 願主 田 星久木太右衛門  
 法量 縦47.1cm 横69.5cm  
 板厚10mm  
 年代 不明  
 材質 檜 1枚 板目

額の左側に神社本殿を、木を木地に貼り付けて浮き彫りのように表し、右側に彩色で夫婦が拝んでいる姿を書いている。木地上には薄く胡粉、群青を塗り、その上に彩色して絵が描かれている。  
 また、額には群青で紗綾形文を描いていて、丁寧な作である。



拝殿向かって右側の絵馬

町原稲荷神社4



22  
名称 女拝み図絵馬  
所在地 横芝光町町原  
寺社名 町原稲荷神社  
作者 不明  
願主 当村 行方貞以女  
豊漁 縦543cm 横685cm  
板厚85mm  
年代 不明  
材質 檜 2枚 柱目

砂浜を背景に、右側に女がひざを着いて拝む姿が、左上には消えてしまったが、波のむこうに神様（粟島明神）が描かれている。この神様が手のみを残して消えたため、何であるか分からないが、手は手招きしているようである。

絵は胡粉を薄く塗り、その上から描いていると思われるが、人物と本尊のところだけ、胡粉がないところから見ると、人物等を先に描いた可能性も考えられる。



23

名称 稲荷神と猿田彦図絵馬  
 所在地 横芝光町町原  
 寺社名 町原稲荷神社  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦38.5cm 横65.0cm  
 板厚13mm  
 年代 不明  
 材質 檜 1枚 板目

左に白狐に乗った稲荷神、右に天狗に担がれ手いるのは猿田彦と思われ、向かい合うように描かれた絵までである。稲荷神と猿田彦が結びつくのは不明であるが、京の山での出会いを描いたのか。

木地の上に直接図が描かれ、5～6色を使って、黒の輪郭線に細かく区画された中に、丁寧に彩色されている。



24

名称 宝珠貼り付け奉納額  
 所在地 横芝光町町原  
 寺社名 町原稲荷神社  
 作者 不明  
 願主 吉田宗次郎  
 法量 縦45.3cm 横90.5cm  
 年代 明治8年 仲秋八朔  
 材質 檜 2枚 板目

宝珠の浮き彫りをを、中央に貼り付けた額で、額縁の四隅には、紙を貼り付けて、隅飾りを表している。

於幾栗島宮 1



25

名称 遊女一行参詣図奉納額  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾栗島宮  
 作者 不明  
 願主 成木村花魁さと以下16人  
 法量 縦77.0cm 横133.0cm  
 板厚 3~5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 7枚 板目

左に栗島宮の拝殿が描かれ、その宮へ着飾った女たちが参詣する姿を現した奉納額である。女たちはいい着物に羽織をを着、傘を持っている者や、犬のチンを連れている者がいたり、髪は嶋田を結び、簪を付け、足には黒色の高下駄を履いていて、とても庶民とは言い難い。



於幾栗島宮

於幾栗島宮には、むかし、都から天皇の皇女が落ち延びてきて、ここに住み、生を終えた。そこで村人は皇女を哀れんで、栗島宮を勧請したという伝承がある。この栗島宮の境内には、皇女がいた証しとして、姫塚の石碑が建てられている。

栗島宮は、女神を奉り、女性病や安産、子育てにご利益があったと言われ、近郷近在から多くの参詣者があって、昔は茶店も出て大いに賑わったという。今は静かに佇み、往時の面影はない。



26  
 名称 女衆拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦790cm 横1022cm  
 年代 明治5年  
 材質 檜 3枚 板目

左上に幕が下がり、その前に幣帛を立てたご神体が置かれ、これを持む女た15人が描かれている。女たちの着物は普段着のようで、近在の農家の主婦層であろう。これだけ粟島宮への女たちの信仰が篤ったのであろう。



粟島宮社殿内部

粟島宮社殿の中の中央に厨子というか、ご神体を奉納する本殿が置かれ、その前に護摩壇がある。これはおそらく粟島宮境内には昔寺社が一緒にあり、明治の神仏分離で寺が廃されたが、社殿の中にその名残が残されたのであろう。

於幾粟島宮3

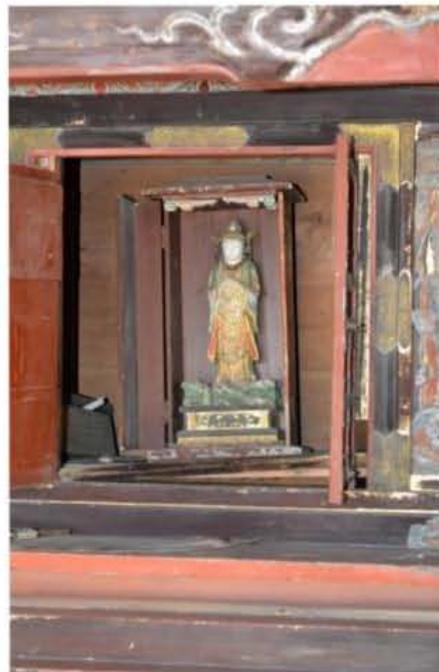


27  
 名称 女衆拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 下横地村、蓮沼村  
 他 女32人  
 法量 縦55.3cm  
 板厚 7mm  
 年代 不明  
 材質 桐4枚 板目  
 2枚欠損

左に粟島宮の拝殿が見え、右に拝んでいる女たちを描いている。女たちは地べたに座り、普段着の着物を着、近郷の農家の女たちであろう。

粟島大明神

粟島宮のご神体で、この姿から姫神であることが分かる。白い顔に、きれいな彩色が施されたご神体に対し、荒削りで作り出した台座から、篠本弘経寺の七面様に共通し、江戸末期の作と思われる。





28  
 名称 女衆拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 米倉村 伊藤氏  
 法量 縦47.5cm 横65.7cm  
 板厚 9mm  
 年代 明治7年4月  
 材質 檜 1枚 板目

左上に青雲がかかり、その手前に幣帛を立てたご神体が、雲に乗って出現し、これを女たちが拝む姿である。

女は着ている着物から、先頭と右2人の3人は若い娘で、左から2人目はその母親であろうか。



29  
 名称 家族拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 南郷村小泉 小倉良助  
 法量 縦34.5cm 横44.1cm  
 板厚 12mm  
 年代 明治29年1月  
 材質 桐 3枚 板目

左上の幕下に、粟島大明神が姿を現し、これを2代の夫婦が拝んでいる姿である。

於幾粟島宮5



30  
 名称 乳授け図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.2cm 横25.5cm 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 1枚  
 大きな漆碗にお乳を搾り出している  
 図で、乳授け図の典型である。

31

名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦10.5cm 横26.7cm  
 板厚7.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

上部を欠損して、顔が分からない  
 が、着物から女であろう。



32  
 名称 馬図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦8.4cm 横21.4cm 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目  
 下部を欠損する。馬は赤く彩色される。

33

名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦12.7cm 横30.2cm  
 板厚5.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

上部を欠損、松と梅のおめでたい  
 図を描いている。



34  
 名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦12.9cm 横17.4cm 板厚 5.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目  
 上部が風雨により、絵が流失したが、  
 下部の残存部から、鷹図と思われる。



35  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦9.8cm 横32.3cm  
 板厚 8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柱目

36  
 名称 博打断ち図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦8.0cm 横32.8cm  
 板厚 45mm  
 年代 文政7年(1824)  
 材質 檜 柱目



中央にサイコロが見え、博打を止める祈願をした絵馬であろう。



37  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦10.8cm 横35.9cm  
 板厚 45mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

38  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦8.1cm 横31.2cm  
 板厚 75mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



紙を貼り付けて、絵を描いた絵馬である。

39  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦8.5cm 横44.3cm  
 板厚 11mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

40  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町於幾  
 寺社名 於幾粟島宮  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦11.3cm 横27.5(35.3)cm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目





41  
 名称 母娘拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦23.0cm 横29.5cm 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



42  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦21.6cm 横28.6cm  
 板厚5.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



43  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦23.7cm 横30.3cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



古屋薬王院福秀寺本堂



本堂に掛る絵馬

薬王院には千葉県指定有形文化財の木造薬師如来立像が本尊として鎮座している。



44  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.9cm 横22.9cm  
 板厚6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

45  
 名称 和歌墨書絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦24.0cm 横34.8cm  
 板厚11mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



46  
 名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.0cm 横25.8cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



本堂内にある  
絵馬



47  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 よし  
 法量 縦21.3cm 横23.8cm  
 板厚 8.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜板目

48  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.8cm 横27.5cm  
 板厚 7mm  
 年代 不明  
 材質 檜板目



49  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦19.0cm 横25.7cm  
 板厚 7mm  
 年代 不明  
 材質 檜板目

50  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 市原  
 法量 縦17.3cm 横28.7cm  
 板厚 5mm  
 年代 不明  
 材質 檜板目





51  
 名称 繪馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦22.9cm 横30.3cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

52  
 名称 女拝み図繪馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦10.0cm 横35.8cm  
 板厚6.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



53  
 名称 女拝み図繪馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦5.1cm 横25.5cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

54  
 名称 女拝み図繪馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.3cm 横25.0cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柱目



古屋薬王院5



55  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦21.4cm 横23.2cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目

56  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.0cm 横21.2cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目



57  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.0cm 横21.1cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目

58  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.2cm 横23.7cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目





59  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦15.6cm 横21.2cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

60  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.1cm 横21.5cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目



61  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.2cm 横22.9cm  
 板厚 6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

62  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋葉王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦17.3cm 横22.3cm  
 板厚 6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目





63  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦23.2cm 横25.8cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

64  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.2cm 横21.8cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目



65  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.9cm 横24.2cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

66  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 時曾根 須笠原氏  
 法量 縦19.5cm 横23.6cm  
 板厚 1mm  
 年代 昭和2年  
 材質 檜 柾目





67  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.8cm 横28.3cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目

68  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.3cm 横24.1cm  
 板厚 1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柂目



69  
 名称 駿列三 図絵馬  
 所在地 横芝光町古屋  
 寺社名 古屋薬王院福秀寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦5.5cm 横36.3cm  
 板厚 6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



本堂内のかもいにかかる絵馬

小川台隆台寺1



70  
 名称 房総参詣図奉納額  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 香堂  
 願主 林要助他15名  
 法量 縦83.0cm 横168.0cm  
 板厚13mm  
 年代 大正7年9月  
 材質 檜板目8枚

林要助が御師として先頭に立ち、男4人、女11人が南房総那古寺へ、参詣した図であろう。左上の山の中腹に小さく堂塔が描かれ、これからそこへ赴こうとしているところであろう。



隆台寺には正面本堂の左側に、方三間の観音堂と不動堂があり、不動堂のほうに多くの絵馬が掛けられていた。



隆台寺不動堂

小川台隆台寺は、鎌倉時代以来の真言宗の寺院で、山門を入ると正面に本堂、左側に方三間の不動堂と観音堂がある。この2棟のお堂に絵馬が掛けられているが、特に不動堂の方に多く、その信仰の厚さが忍ばれる。



71  
 名称 不動明王図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦61.0cm 横24.0cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



72  
 名称 不動明王剣付絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦71.6cm 横18.5cm  
 板厚13mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



73  
 名称 不動明王剣付絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 村越氏  
 法量 縦38.6cm 横21.7cm  
 板厚6.5mm  
 年代 慶応2年  
 材質 檜 板目

小川台隆台寺3



74  
 名称 夫婦拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦29.0cm 横44.8cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

75  
 名称 女拝み図繪馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木氏  
 法量 縦28.5cm 横35.1cm  
 板厚8mm  
 年代 慶応2年  
 材質 檜 板目

左上には不動明王と弘法  
 大師が描かれ、真言宗寺院  
 への奉納絵であることが分  
 かる。



76  
 名称 女拝み図繪馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 中川氏  
 法量 縦24.1cm 横19.6cm  
 板厚11.5mm  
 年代 明治3年  
 材質 檜 板目



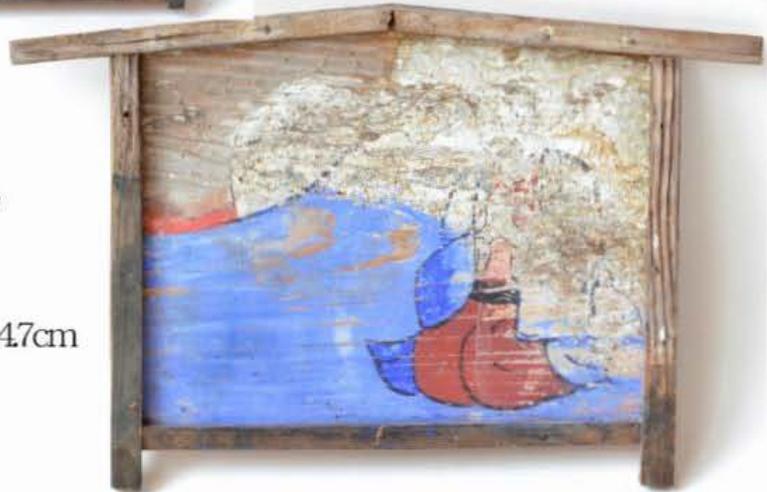
77  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 当村 林氏  
 法量 縦26.0cm 横29.6cm  
 板厚6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

78  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 当村 村越氏  
 法量 縦27.7cm 横34.4cm  
 板厚7mm  
 年代 明治3年  
 材質 檜 板目



79  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.0cm 横23.8cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

80  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦19.5cm 横24.7cm  
 板厚6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



小川台隆台寺5



81  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木某  
 法量 縦18.9cm 横24.2cm  
 板厚7.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

82  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦17.8cm 横23.2cm  
 板厚6.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



83  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦18.1cm 横23.9cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

84  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.3cm 横22.1cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目





85  
 名称 男拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 須合氏  
 法量 縦149cm 横21.4cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

86  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木氏  
 法量 縦18.5cm 横24.0cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



87  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木氏  
 法量 縦19.0cm 横23.6cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



88  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 林氏  
 法量 縦16.1cm 横26.8cm  
 板厚6.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



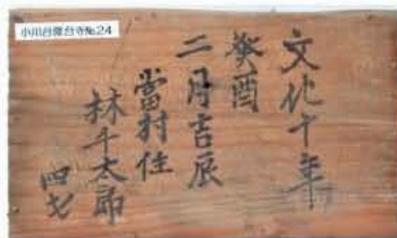
小川台隆台寺7



89  
 名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 林氏  
 法量 縦19.0cm 横28.0cm  
 板厚8.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



90  
 名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 当村 林千太郎  
 法量 縦16.6cm 横27.8cm  
 板厚7.5mm  
 年代 文化10年(1813)  
 材質 檜 板目



91  
 名称 犬図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦16.3cm 横24.3cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



92  
 名称 大願成就文字奉納額  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木氏  
 法量 縦34.3cm 横23.0cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

93  
 名称 馬図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦24.3cm 横33.3cm  
 板厚9mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



94  
 名称 虎図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦25.0cm 横33.4cm  
 板厚9mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

小川台隆台寺 9



95  
 名称 矮鶏図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 林 久右衛門  
 法量 縦23.9cm 横30.2cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

96  
 名称 鷹図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦17.9cm 横23.1cm  
 板厚7mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



97  
 名称 龍図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.0cm 横25.7cm  
 板厚8mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

98  
 名称 龍図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦20.7cm 横25.7cm  
 板厚5.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目





99  
 名称 馬図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦19.4cm 横22.2cm 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

100  
 名称 馬図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦17.7cm 横22.4cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目



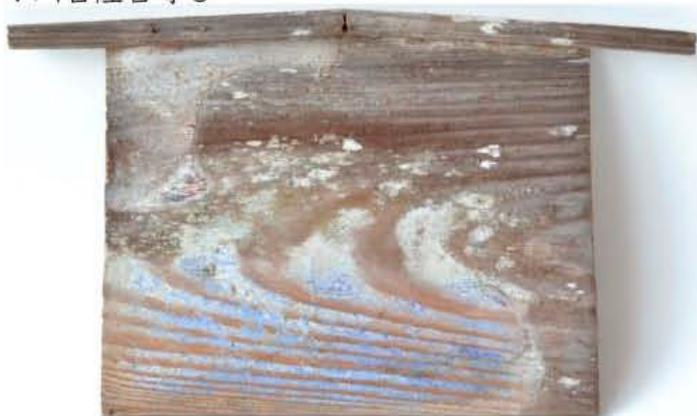
101  
 名称 矮鶏図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦11.8cm 横15.1cm 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

102  
 名称 犬図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦12.2cm 横19.6cm 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目



103  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦11.8cm 横17.3cm  
 板厚1mm  
 年代 不明  
 材質 檜 柾目

小川台隆台寺8



104  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦19.5cm 横23.7cm  
 板厚6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

105  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 鈴木氏  
 法量 縦19.0cm 横20.8cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



106  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦13.3cm 横16.2cm  
 板厚6mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目

107  
 名称 絵馬  
 所在地 横芝光町小川台  
 寺社名 小川台隆台寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦12.1cm 横43.9cm  
 板厚5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



長倉長勝寺 1

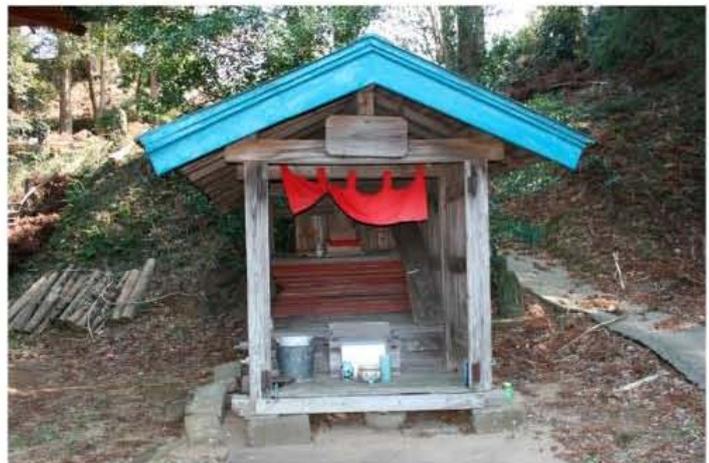


108  
 名称 女拝み図絵馬  
 所在地 横芝光町長倉  
 寺社名 長倉長勝寺  
 作者 不明  
 願主 長倉吉岡某  
 法量 縦26.8cm 横36.4cm  
 板厚6.5mm  
 年代 不明  
 材質 檜 板目



長倉長勝寺

長勝寺は長倉集落のほぼ中央にある真言宗の寺院である。その本堂の前に小さな祠のような大師堂があり、その祠の内外に絵馬が掛っている。おそらく大師信仰による絵馬奉納であろうが、大師信仰の篤いこの地域で、他には見られない。



絵馬が掛る大師堂



109  
名称 女拝み図絵馬  
所在地 横芝光町長倉  
寺社名 長倉長勝寺  
作者 不明  
願主 不明  
法量 縦18.9cm 横26.7cm  
板厚5mm  
年代 不明  
材質 檜 板目

110  
名称 女拝み図絵馬  
所在地 横芝光町長倉  
寺社名 長倉長勝寺  
作者 不明  
願主 長倉区伊藤  
法量 縦18.8cm 横25.7cm  
板厚6mm  
年代 不明  
材質 檜 板目



111  
名称 女拝み図絵馬  
所在地 横芝光町長倉  
寺社名 長倉長勝寺  
作者 不明  
願主 伊藤  
法量 縦20.8cm 横23.2cm  
板厚6mm  
年代 不明  
材質 檜 板目

112  
名称 女拝み図絵馬  
所在地 横芝光町長倉  
寺社名 長倉長勝寺  
作者 不明  
願主 長倉吉岡某  
法量 縦26.8cm 横36.4cm  
板厚6.5mm  
年代 不明  
材質 檜 板目



遠山萬福寺1



113  
 名称 家族拝み図  
 奉納額  
 所在地 横芝光町遠山  
 寺社名 遠山萬福寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦36.0cm  
 横46.0cm  
 板厚2mm  
 年代 明治39年  
 材質 板ガラス



裏面



裏面板に書かれた紀年銘



萬福寺門前



本堂内に掛る絵馬



114  
 名称 女拝み図奉納額  
 所在地 横芝光町遠山  
 寺社名 遠山萬福寺  
 作者 不明  
 願主 不明  
 法量 縦35.5cm 横45.8cm  
 板厚2mm  
 年代 不明  
 材質 板ガラス

裏面



本堂左側に掛る絵馬

# 解説

## 1. 絵馬の歴史

奈良時代の正史「続日本紀」には、神馬を奉納したと記されている。しかし、馬は高価で奉納するのが負担であり、また、奉納された寺社でも馬を飼育するのが大変であった。そこで馬を紙や土で作った馬を奉納するようになった。平安時代には板に馬の絵を描いて、奉納する様になったといわれる。

室町時代になると、馬だけでなく様々な絵が描かれるようになり、さらに奉納所への祈願が加わって、それに因む絵も描かれるようになった。安土桃山時代から江戸時代になると、著名な絵師の流派による絵馬が人気となり、古来からの物語や浄瑠璃戯曲を題材にした絵や風景図など、美術的に優れた絵馬が作られるようになる。この頃には絵馬が大型化し、縁を付けた奉納額が多くなり、これらをかけて見せる絵馬堂や額堂が建てられた。

明治時代になると、対外戦争の戦勝祈願や、政治的な社会世相を題材にした絵馬が現れる。また、切実な祈願を表した拝み図の個人奉納の小絵馬が今も多く残り、これが今日盛んに奉納される合格祈願絵馬へと繋がっているのだろう。

千葉県で最も古い絵馬は、大網白里市金谷郷の縣神社に伝わり、当地を領有した酒井康治が天正7年に奉納したもので、狩野光信が描いた弁慶と牛若丸図である。これを初めとして大網白里市、また南の長南町の各寺社には、江戸時代を通じて絵馬の優品が伝わり、この時代に絵馬の奉納文化があったと思われる。平成8年には千葉県教育委員会によって、県内絵馬・奉納額の調査報告書が刊行され、その県内のあり方の実態が明らかになった。その中で絵馬・奉納額の分布は、野田市・流山市・佐倉市・成田市などが多く、その多くは近代以降のものであった。特に成田市では新勝寺に集中し、同寺には額堂が2棟も建てられ、庶民信仰の集中が絵馬奉納という行為が顕現化したのであろう。

平成8年の報告書では旧光町の絵馬は1点も示されなかったが、今回の展示企画に当たる事前調査では、100点にも上る数を確認した。そのことからまだまだ埋もれている絵馬があることも考えられ、これを地域における絵馬の実態を知るひとつの契機としたい。



成田山新勝寺額堂

## 2. 横芝光町の絵馬の種類

### 絵馬の形

広い意味での絵馬は、形では家形（庵形）をした絵馬と、方形で四周に枠を有する奉納額とに分けられる。家形の絵馬には、上部が屋根状の三角に傾斜を有するもの、周りに木枠を付けたもの、上部の木枠が一文字のものは鳥居形、横に長いもの、縦に長いものなどに分けられる。町内の絵馬では周りの枠が失っているものも多く、形が判然としないものもある。

### 絵馬の構造・材質

絵馬の構造は、その形と相まって微妙に変化している。家形の絵馬では、江戸時代から明治期にかけての中・小絵馬は、厚さ10～5mmの板に、周りを角材で縁取る様に釘付け（釘は鉄・木両者ある）している。そして多くの場合、枠木は黒く塗り、絵馬が目立つ様になっている。昭和前期の絵馬になると、板厚が1mm程度の薄板が多くなり、周りの枠木はのり付けするだけのものが多くなる。おそらくこの時期が、絵馬の奉納が最も多く、それに対応する様に大量生産した結果かもしれない。また、昭和前期の絵馬は、上部の傾斜が弱く、鳥居形に近くなっている。

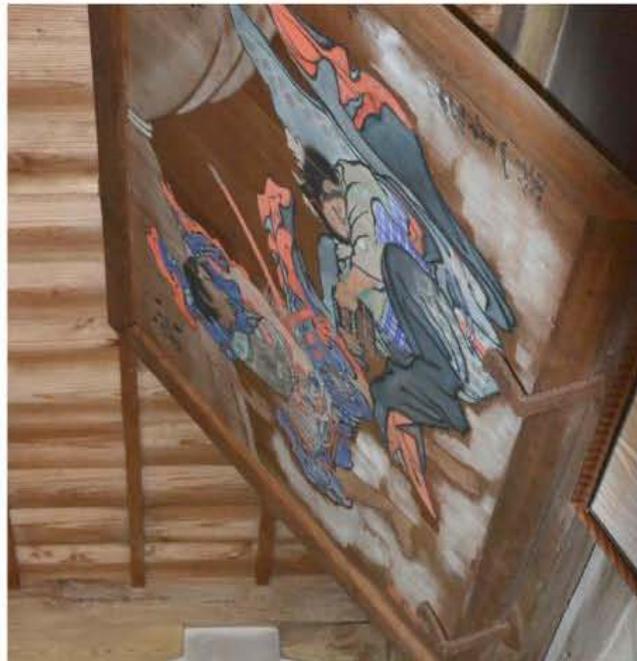
絵馬の板材の多くは、檜（ヒバ）材と思われ、江戸から明治期の厚さを有する板は材を板目にしたものを使っているのに対し、昭和前期の薄板は柾目にしたものを使っている。このほか、粟島宮の絵馬は桐材を使ったのが2点ある。

### 絵馬の画題

絵馬の図では、拝み図が最も多く、これはほぼ定型化され、1人の男か女のほか、夫婦、母娘、家族、講中などがある。これに近いものでは参詣図がある。拝み図ではほとんどと行っていいくらい、拝む対象を描いてなく、懸垂幕が懸かって提灯が下がり、本尊が隠れるような構図となっている。拝み図は小絵馬では個人による奉納が多く、中でも女拝み図の方が男拝み図より多い。大絵馬になると、大勢の人を描きこんだ講中図や、拝み図ではないが参詣図がある。



成田山新勝寺額堂 剣額



大網白里市清名幸谷大宮神社  
朝比奈草摺曳図奉納額

次に多いのは動物図で、黒馬は雨乞い祈願と言われ、白馬は晴天祈願と言われる。鷹は胎盤を意味し、鷹図は安産祈願を、矮鶏親子図は子宝祈願を表すと言われる。このほか龍、虎、犬、兎など、様々な動物が描かれ、それぞれ意味ある祈願が込められたのであろう。

町内の絵馬では物語図は少なく、牛熊八幡神社と町原稻荷神社にあるのみであった。物語図は今昔物語や平家物語などの文学作品や伝承の逸話を題材に採り、多くは絵師によって描かれて美術的にも優れているものが多い。特に物語り図の題材としては「源頼光大江山の酒呑童子退治」や「源為朝島流し」「俵藤太百足退治」などが多く、ひとつの定型化が見られる。

このほかでは和歌を書いたもの、不動明王の剣を付けたもの、宝珠を付けたものなどがある。

### 絵馬の彩色

横芝光町の絵馬は、当たり前のことであるがほとんどが木の板に彩色して描かれている。その彩色の仕方では木地に直接描く方法、木地の上に胡粉を塗って下地とし、その上に描く方法とがあり、下地の胡粉を厚く塗った場合は、経年劣化によって胡粉が剥れ易く、絵の消失例が多い。それに対し木地に直接描いたものは、絵の依存度が良い。彩色は岩絵の具を使い、青は群青、緑は緑青、赤は弁柄を基本とし、絵の具の定着には膠を使っていると思われるが、特に群青は剥落しやすくなっている。外にかけていた絵馬は絵の依存度が悪いだけでなく、堂梁の漆喰が被ってさらに悪化した例も多々ある。

遠山萬福寺のガラス絵の絵馬は、裏面から逆の工程で描く高度な技術を必要とし、その起源は不明であるが、旧下総町の楽萬寺に同様の絵馬があり、図柄、彩色がよく似ている。萬福寺のものは旧佐原市の奉納者が多く、明治から昭和初期におそらく佐原あたりのガラス絵作家の製作によると考えられる。



旧下総名木楽萬寺本堂



本堂内部に掛るガラス絵奉納額



本堂外側に掛る  
ガラス絵奉納額



京都豊国神社、神門の両側に瓢箪形の絵馬が掛かる

本書は、平成26年4月12日から6月22日まで、町民ギャラリーで実施した企画展の図録である。本書の執筆、編集は教育委員会社会文化課道澤明が当たった。

展示、本書執筆に当たり、下記の方々からご協力、ご教示を賜りました。記して御礼申し上げます。

森清氏(新井観音堂)、橋浦寛照氏(古屋薬王院代表役員)、  
橋浦芳朗氏(古屋薬王院役員)、大津頼政氏(小川台隆台寺住職)、  
林政宏氏(牛熊八幡神社)、田鍋悦央氏(牛熊八幡神社役員)  
五木田廣嚴氏(遠山萬福寺住職)、吉岡實氏(町原稻荷神社役員)  
吉岡敏幸氏(町原稻荷神社役員)、小関昭七氏(於幾粟島宮氏子総代)  
桜井勝氏(於幾粟島宮役員)、石坂繁氏(長倉長勝寺檀家総代)、  
小倉博氏(成田山靈光館)、久野一郎氏(睦沢町立歴史民俗資料館)

町民ギャラリー図録

祈りの絵画

横芝光町の絵馬

発行 平成26年4月12日

編集 横芝光町教育委員会

印刷 三陽メディア株式会社

